

## 第2章

# 上部消化器がん

### 概況

厳密に言えば食道の入り口に当たる下咽頭も上部消化器に含まれるでしょうが、通常は上部消化器といえは食道と胃ということになります。

タバコの害も配慮する必要がありますが、刺激物の習慣的な摂取も問題になります。特にアルコール度数の高い酒は要注意です。

上部消化器のがん治療を考える際、基本の清熱解毒の生薬として、「白花蛇舌草 30g + 白毛藤 30g」をよく用います。（白花蛇舌草については「大腸がん」の102頁参照）

教科書的な胃がんの弁証論治は以下の通りです。

弁証型	主症状	代表処方
1. 肝胃不和	上腹部の脹痛・口苦・噯気・噯逆	逍遙散+旋覆花代赭石湯加減
2. 痰湿凝結	胸悶・胃脘疼痛・嘔吐・下痢	開鬱二陳湯加減
3. 瘀毒内結	胃脘刺痛・心下痞按痛・嘔血・便血	失笑散+桃紅四物湯加減
4. 脾胃虚寒	胃脘隱痛・朝食暮吐・倦怠無力・浮腫・下痢	理中湯+六君子湯加減

5. 気血兩虚	全身倦怠・動悸・息切れ・眩暈・ 不眠・四肢浮腫	八珍湯加減
6. 胃熱傷陰	胃脘灼熱・口渴冷飲・食後痛甚・ 食欲減退・大便乾燥	養胃湯加減

逍遙散（『和劑局方』）：柴胡・白芍・当帰・白朮・茯苓・生姜・炙甘草・薄荷  
 旋覆花代赭石湯（『傷寒論』）：旋覆花・党参・代赭石・法半夏・生姜・炙甘草・大棗  
 開鬱二陳湯（『萬氏女科』）：陳皮・茯苓・蒼朮・香附子・川芎・半夏・青皮・莪朮・  
 檳榔・甘草・木香

失笑散（『和劑局方』）：五靈脂・蒲黄

桃紅四物湯（『医宗金鑑』）：当帰・赤芍・生地黃・川芎・桃仁・紅花

理中湯（『傷寒論』）：人参・乾姜・白朮・炙甘草

六君子湯（『医学正伝』）：人参・白朮・茯苓・炙甘草・半夏・陳皮・大棗・生姜

八珍湯（『正体類要』）：人参・白朮・茯苓・甘草・熟地黄・当帰・白芍・川芎

養胃湯（『臨証指南』）：沙参・麦門冬・玉竹・白扁豆・炙甘草・桑葉

## KEY となる生薬——木鼈子

近年、私は中国山西省の李可老師（コラム参照）のご教示により<sup>もくべつし</sup>木鼈子（別名：ナンバンカラスウリ、*Momordica cochinchinensis* Spr. の成熟種子）の使用を始め、良好な成績を上げています。この生薬は有毒成分を持つため一般に使用される量は少ないのですが、李可老師は木鼈子 30g を 10 日間連続使用し、3～5 日間休止することで安心であるといっています（李可著『李可老中医急危重症疑難病経験專輯』山西科学技術出版社・2002）。木鼈子は肝・脾・胃に入り、積塊を消して、腫毒を化し、さらに晩期疼痛を止めるといわれています。ただし木鼈子には細胞毒（Ribosome inactivating protein）があるため、煎じるときは搗碎してはなりません（李可老師）。木鼈子は甲状腺がんや悪性リンパ腫にも使用可能だといわれています。